

しゃくそんえでん
『釈尊絵伝』 7枚組

(公財)仏教伝道協会蔵

昭和30年、仏教伝道協会の沼田恵範氏は人々が身近における頒布用の絵伝を作成しようと考え、高楠順次郎博士の創設した武蔵野女子学院(現武蔵野大学)の鷹谷俊之校長を介して野生司香雪にその原画12枚の制作を依頼してきた。香雪は承諾したが、70歳、次第に体調を崩し始めた時期でもあり、昭和34年までに7枚は完成させたが残念ながら完結せず、昭和35年に7枚組として刊行された。

絵伝について香雪を尊敬した仏教、インド哲学者、文化勲章受章者の中村元博士(父君が香川県財田村出身)は仏壇の上に掲げて毎日拝んでいたという。

この絵伝の意義は、「サールナートで世界に呼びかける仏伝壁画」、信州善光寺雲上殿で仏教の世界伝播の一例、日本への伝播の物語としての「善光寺絵伝」、そして日本の人々が身近に置ける「釈尊絵伝」、すなわち仏画家香雪が生涯をかけて描いた仏伝画の三部作といえる。

尚、この絵伝は、先年から宇治平等院を皮切りに全国を巡回中で、今回は故郷での展覧会に合わせて展示させていただくことになった。